

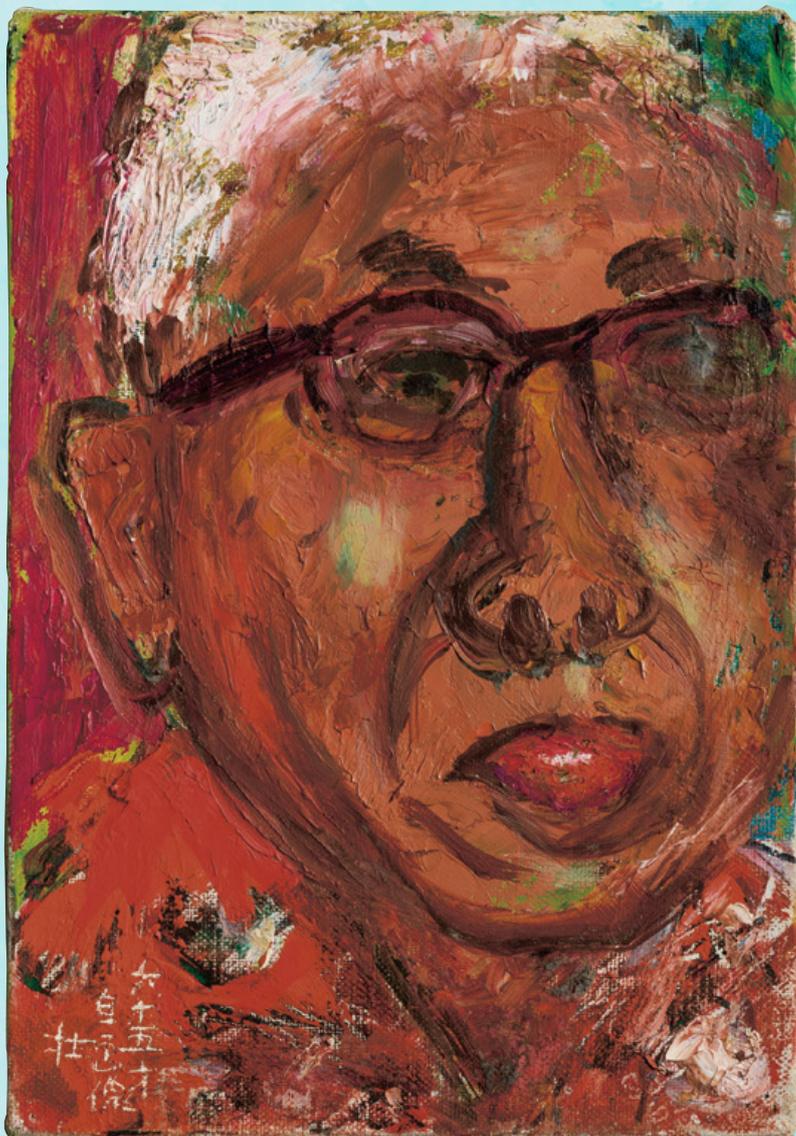
没後50年記念企画展

川喜田壯太郎

人と作品

2022年11月19日 Sat. ~ 2023年1月22日 Sun.

Sotaro K



六十五歳自画像 1969年頃 油彩 館蔵



岩田橋のたもと 1960年代 油彩 館蔵



ジャワにて 父半泥子(左)、
弟俊二(中央)と 1927年

開館時間／10時～17時(入館は16時30分まで)

休館日／毎週月曜日[但し祝日の場合は翌日]

[1月9日(月・祝)は開館、翌10日(火)は休館]

年末年始[12月29日(木)～1月3日(火)]

入館料／一般500円[400円]・学生300円(中学生以下無料)

※[]内は20名様以上の団体料金

公益財団法人 **石水博物館**

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18

【TEL】059-227-5677 【FAX】059-213-5789

<https://sekisui-museum.or.jp/>



主催:石水博物館 特別協力:株式会社百五銀行

没後50年記念企画展

川喜田壮太郎

人と作品

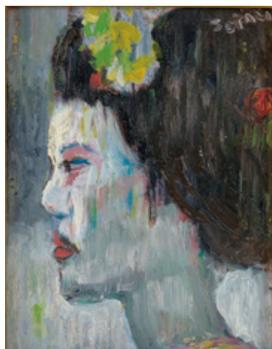
川喜田壮太郎(1904～1972)は、津市の旧家川喜田家の17代目として生まれ、百五銀行の頭取や当館の前身である財団法人石水会館の理事長などを務めた一方、映画、洋画、陶芸、登山など様々な趣味を極めました。日本銀行勤務を経て戦中に百五銀行へ入行、戦後の動乱のなか第9代頭取に就任すると、昭和25～46年(1950～1971)の在任中、経済復興期における百五銀行の業容拡大と、地域経済の発展のため尽力しました。

また昭和47年(1972)、千歳文庫と川喜田家伝来の美術品や古文書など約3万点を石水会館に寄贈しました。この時の寄贈資料が、当館コレクションの礎になっています。

本展では、壮太郎の没後50年を記念し、様々な芸術分野の遺作と大量に遺された文章からその事績を顕彰し、父半泥子と同様、財界人でありながら多彩な趣味に生きた、彩り豊かな生涯を紹介します。



ロクロ場 油彩 1970年 館蔵



京の舞妓 油彩 1961年 館蔵



波切の魚市場 油彩 1965年 館蔵



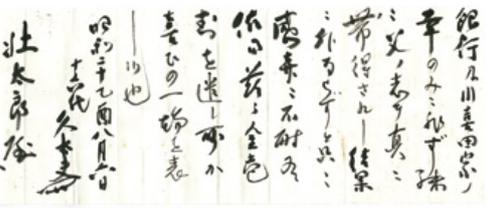
百五銀行マッチ箱 壮太郎デザイン 館蔵



鳥絵皿 1964年 廣永窯 館蔵



ニューオーリンズの夜 油彩 1967年 百五銀行蔵



感喜状 半泥子筆 紙本墨書 1945年 館蔵



竹茶杓 銘 天下茶屋 壮太郎作・半泥子筒 1941年 館蔵



百五銀行頭取時代の 壮太郎

※作者の表記のない作品は川喜田壮太郎作です。

ギャラリートーク 担当学芸員が展示室にて展覧会をご案内します。

日時:11月23日(水・祝)、12月4日(日)、12月17日(土)、1月4日(水)、1月15日(日) 各日14時より30分程度

※申し込みは不要。当日14時までに石水博物館受付前へお越しください。
※参加費は無料ですが、当日の入館料が必要です。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、チラシの掲載内容に変更が生じる場合があります。当館ホームページまたは電話にて、最新の情報をご確認ください。また、ご来館の際には、感染症予防対策にご協力ください。

次回展覧会

生誕200年記念企画展

《川喜田石水—この商人、何者! ?—》

会期:2023年1月28日(土)～4月2日(日)

展示替休館

2023年1月23日(月)～27日(金)

交通アクセス

- JR・近鉄津駅東口より三重交通バス(久居駅方面行)にて約15分、「青谷口」下車徒歩約8分
- 近鉄久居駅西口より三重交通バス(津駅方面行)にて約10分、「青谷口」下車徒歩約8分
- JR阿漕駅より徒歩約12分
- お車をご利用の方

【津市街から】国道23号線「大倉」交差点を県道776号線(久居方面)へ。JRの踏切を越え、約200m先岩田池手前の細い道(角に看板あり)を左折、約300m先左側。(駐車場 15台)

公益財団法人 **石水博物館**

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18

【TEL】059-227-5677 【FAX】059-213-5789

<https://sekisui-museum.or.jp/>

